

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100185		
法人名	有限会社 ラポール		
事業所名	グループホーム 神埼ひだまり		
所在地	〒842-0011 神崎市神埼町竹4694-1 (電話) 0952-52-8818		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月16日	評価確定日	平成 21年4月26日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	4.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建て		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	3 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.9 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋本病院	佐賀記念病院	高森歯科
---------	------	--------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀平野の田園地帯の集落にあり、高速道路東脊振インターから10分、長崎本線の神埼駅より徒歩20分前後と交通アクセスに恵まれた環境に位置する。入居者はゆっくりとした空間の中で生活されており、一人ひとりのペースに合わせるため、職員は入居者を急がせることなく、それぞれの特性を活かした役割を持ってもらいながら家庭的な雰囲気を作られている。職員は一丸となって、優しく笑顔で対応されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果後、会議を開催し、現在のホームの状況を見直し改善が必要かどうかの話し合いを行われている。具体的に、看取りの問題等について少しづつではあるが改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員でサービス評価の目的や内容を確認し、サービスの自己評価へ取り組まれている。また、前回の外部評価の結果等を踏まえ、サービスの質の向上に、どのように取り組んでいくかを検討されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の調査では、情報伝達が中心であったが、評価の結果を受け、2か月に1回の予定で運営推進会議を行い、地域の方々や家族の意見を聴き、そこでの意見を大切にしながらサービスに取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議で意見等を聞く機会を設けられている。また、玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を反映できる体制作りがなされているが、市町等の外部の窓口の説明がなされていない。今後、外部者へ表せる体制を整備することで、より一層運営に反映させられることが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>半年に1度、地域のお祭りや老人クラブの活動について、区長・民生委員と連絡をとりあい、その都度、希望者を中心として参加されている。また、区役等での活動に参加し、地元の人々と交流することに努められている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に喜び、共に悲しみ、共に歩む」「笑顔と真心ですべては、利用者のために」を事業理念とし、その人らしく生活できる空間を提供されている。住み慣れた地域の中で、いつまでも安心して生活されるように取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を大きく掲示し、いつでも見られる状況にし、出勤の際には必ず見るようにしている。職員も理念を共有し、実現に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	半年に1度地域のお祭りや老人クラブの活動について、区長・民生委員と連絡をとりあい、その都度、希望者を中心として参加されている。また、区役等での活動に参加し、地元の人々と交流することに努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果後、会議を開催し、現在のホームの状況を見直し、改善が必要かどうかの話し合いを行われている。具体的に、看取りの問題等について少しずつではあるが改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	前回の調査では、情報伝達が中心であったが、評価の結果を受け、2か月に1回の予定で運営推進会議を開催し、地域の方々や家族の意見を聴き、それを大切に、その意見を取り入れたサービスに努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1回行われる、地域での研修会(市町担当課・施設等従事者等も参加)に参加し、研修及び相談等も行い、管理者・職員ともに質の向上に努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた際に、最近の様子、健康状態について報告されている。金銭管理については月一回請求書を送付される際に明細書を入れ、面会に来られない方についても個別対応をされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見などを聞く機会を設けられている。また、玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を反映できる体制作りがなされているが、市町等の外部の窓口の説明がなされていない。	○	家族等に関しては、意見・不満・苦情を管理者や職員に言える雰囲気作りをおこなわれていて、努力をされている。今後、外部者へ表せる体制を整備することで、より一層運営に反映させられることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの職員により支援が基本とされているが、やむを得ない理由等により離職された場合には、家族や本人が心配や不安を抱かれないように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はできるだけ参加できるように配慮されている。職員の状況を確認しながら、他施設での研修をおこない、質の向上に努められている。	○	段階に応じた研修が受けられるような体制の整備と共に、研修記録や資料等の整備と共有化が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会等に参加され、地域の事業者と交流する機会が設けられており、相互のかかわりを通してサービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービスを利用していただけるよう、事前に、来所していただいたり、宿泊体験を受け付けられている。来所出来ない方に対しては、家族や担当のケアマネジャーから情報を収集し、早くホームの雰囲気に馴染めるように対応されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や日常生活(洗濯物たたみ、小葱・枝豆の栽培や収穫)等を通して入居者から学び、支えあう関係を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活パターンを家族や本人より聴き、本人の希望・意向の把握に努められている。また、一人ひとりのケース記録を時系列ごとに細かく記録され、本人が過ごしたいように生活をしていただくよう支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、ケアマネジャーと担当者会議や随時話しをしながら介護計画を作成している。また、本人から話が伺えない場合は、本人本位になるような介護計画を、家族や関係者と話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングやショートカンファレンスを行い、期間に応じた見直しを行なわれている。また、本人や家族、主治医と話し合い、状況に応じた新たな計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方で来所出来ない方に対しては、電話やお便りで報告をされている。できる限り要望に沿えるよう家族と話し合い、支援するよう心がけられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族からの入居以前からのかかりつけ医の受診希望があれば、希望に沿うように協力医療機関以外であっても対応が行われている。また、入居者が適切な医療を受けられるようにその医療機関と連携をとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された際には、家族や主治医と話し合っている。家族の希望に添えるよう、重度化された場合や終末期の在り方など、医師や職員との話し合いを重ねられている。	○	現在検討中である重度化や終末期に向けた方針を定め文書化し、対応できる体制を整えられることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーには十分配慮し、羞恥心や自尊心を傷つけないように言葉かけや対応に配慮されている。また、記録の取り扱いにおいては適切な対応がとられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人が過ごしたいような生活をしていただくよう対応されている。また、今までの生活パターンや希望などを本人や家族などに伺い、それを考慮し、毎日を過ごしていただくように対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲でメニュー作成、配膳や下膳、食器洗いなど、入居者が関わるできるようにされている。食事でも会話をしながら楽しく行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午前中の対応となっているが、それ以外の時間でも本人の要望に合わせ、入りたい時に入られるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	俳句や農作業、その方の生活歴や個人に合わせた役割を持っていただき、日々を過ごせるようにされている。また、好きなことや楽しみなことを、好きな時にできる限りしていただくようにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中から、本人の要望を聞き、希望に応じ庭や集落内を散歩されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけずに自由に入出入りができるような状態にされている。また、居室にも鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署との合同訓練を実施し、地元区長等地域の方をまじえた避難訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食物繊維を多くとるなど、栄養バランスや個人にあった量(糖尿病等の方々に関しては病院との連携をとりながら)を考えられている。また、水分摂取量のチェックも、ひとりひとりの状況を確認をされながら行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設立当初から換気については考えられ、居心地の良い環境を整備されている。落ち着いた雰囲気を醸し出すよう花や生活感を重視し、居心地良く過ごせるような工夫をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い、なるべく新しいものは購入せず、使い慣れたものや好きだったものを自由に持ってきていただけるよう工夫されている。		